

Aomori Prefectural Industrial Technology Research Center

**支援メニュー
その他** 青森産技の各研究所では、さまざまな研究開発のほか、各種技術支援メニューもご用意しております。企業者さま、生産者さま、皆様の困りごとの解決に、是非ご活用ください。

依頼試験・分析 各種依頼試験・分析をお引き受けします。(試験・分析項目は当センターのホームページに掲載の情報をご確認ください。)

機器利用 研究所に設置されている機械や装置をご利用いただけます。(対象機器の種類や料金等は各研究所にお問合せいただくか、当センターのホームページに掲載の情報をご確認ください。)

ドクター派遣制度 生産現場での課題に対して研究職員を派遣し、一緒に課題の解決を行います。

指導相談 各分野の研究職員が、技術指導や相談に対応します。

受託研究 県、市町村、企業、大学、独立行政法人、農業、漁業、商工業団体などから、研究を受託します。

共同研究 新製品開発や新事業への展開を促進するため、県内企業や生産事業者と相互に研究課題を分担、共同して研究開発を進める、共同研究を行っています。

研修制度 各研究所が研修会・講習会を主催するほか、技術研修生を受け入れます。

種苗供給 稲、花き、野菜などの種苗、きのこの菌、魚の稚魚などを生産・供給します。

情報提供 各研究所の報告書発行などのほか、機関紙、HP等で技術情報や資源・環境の観測データ等を提供します。

連携 弘前大学、県立保健大学、八戸工業大学等の大学や、他の研究所、支援機関と連携し、研究開発や技術支援を強化します。

お問い合わせ
地方独立行政法人 青森県産業技術センター 本部事務局企画経営室
TEL:0172-52-4319
〒036-0522 黒石市田中82-9

<https://www.aomori-itc.or.jp/>



あおもりの未来、技術でサポート

地方独立行政法人

青森県産業技術センター



あおもりの未来、技術でサポート

「青森県の産業を元気にする研究機関」をめざして

当センターは、県産業の振興・発展をめざし、「工業」・「農林」・「水産」・「食品加工」の4部門から成る13研究所を統合した総合的な研究機関として平成21年4月に発足し、部門ごとの研究はもとより、分野を横断した連携型の研究開発、研究成果を生かした新商品づくりなどさまざまな取り組みを行ってきました。

当センターが今後も県民の皆様にご理解いただき、より信頼される研究機関として、将来にわたって維持・発展していけるよう、「あおもりの未来、技術でサポート」をキャッチフレーズに、全職員が責任感と義務感を持って日々努力し、一層の研究成果を挙げて参りますので、当センターを大いに活用していただきますようお願いいたします。

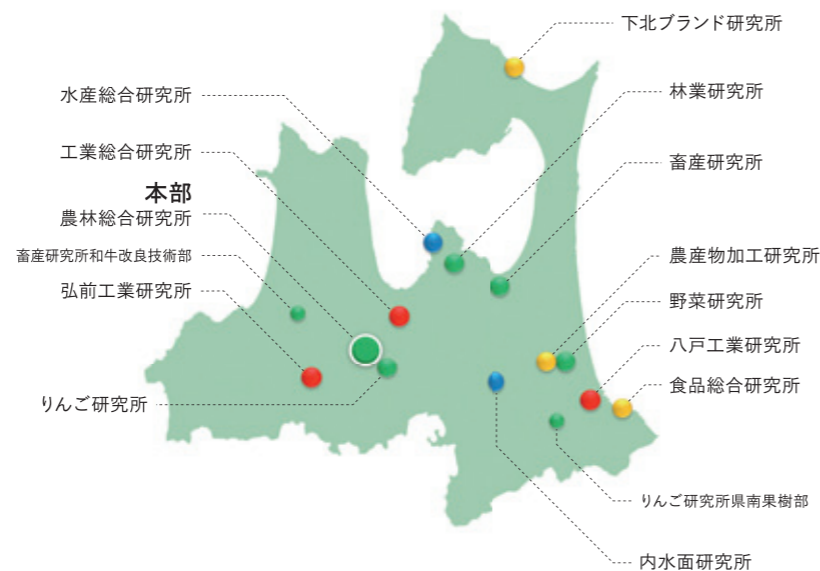
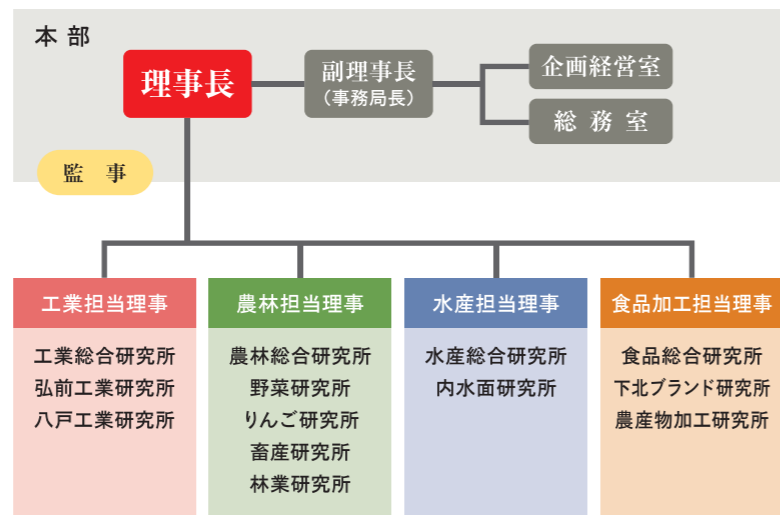


Photo : 「小型電波暗室」各種規制に基づいて、電子機器から出る不要な電磁波ノイズを測定します。(八戸工業研究所)

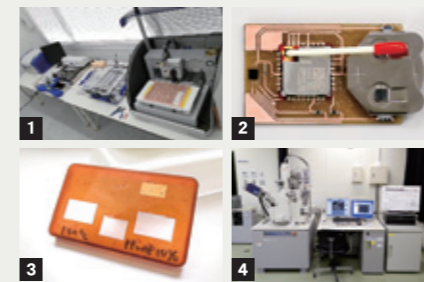
工業部門

工業部門は青森市、弘前市、八戸市にある3研究所からなり、県内企業の技術課題の解決や依頼試験、機器貸出、技術相談、企業ニーズに応えた研究開発など県内産業振興に向けた活動を行っています。企業の皆様の「アイデアを形にしたい!」を支援します。

工業総合研究所

情報通信、自動制御技術及び計測評価技術、バイオマス複合素材の製造及び評価技術、異物分析等に係る研究の他、技術相談や機器貸出等を通じて企業活動を支援しています。

- 注目技術
 - DXの基盤技術として、多様なセンサによるセンシング技術、センサ情報を収集・解析するIoT・AI技術の開発に取り組んでいます。
 - カーボンニュートラル実現のための技術として、地域の廃棄素材に注目したバイオマス資源活用技術の開発に取り組んでいます。
- 技術支援
 - 電子顕微鏡や有機・無機物質の分析装置により、異物の推定や規制物質の含有の有無など、各種分析を行っています。
 - IoT開発支援棟において、人材育成やIoTシステム・デバイスの開発を支援しています。



1. 電子基板製造装置 2. IoTセンサデバイスの試作例 3. バイオマス素材含有PPの成形試作品 4. 電子顕微鏡

ご相談窓口
工業総合研究所
TEL:017-728-0900
〒030-0142
青森市野木山口221-10
www.aomori-itc.or.jp/soshiki/kou_sougou/



弘前工業研究所

県内資源による発酵食品や美容健康機能性素材・製品、伝統工芸品、デザインや商品企画に関する研究、技術相談、依頼試験等を通じて企業活動の支援を行っています。

- 注目技術
 - 3つの実証施設(食品素材化、発酵食品、美容健康)と独自開発の商品化企画支援ツール(V-CUP)や広報ガイドブックを活用し、商品イメージを明確にした研究開発に取り組んでいます。
- 技術支援
 - 食品の加工装置、大判プリンター、写真スタジオなどにより、「商品開発」や「売れる商品づくり」支援を行っています。
 - ミネラルや有機物質の精密分析装置により、微量元素や機能性物質の定性・定量などを行っています。



1.ICP発光分光分析装置 2.日本酒テロワール商品例 3.研究成果活用商品例 4.津軽塗デザインタイル

ご相談窓口
弘前工業研究所
TEL:0172-55-6740
〒036-8104
弘前市扇町1丁目1-8
www.aomori-itc.or.jp/soshiki/kou_hirosaki/



八戸工業研究所

機械金属試験所を前身とし、機械・金属・エレクトロニクス分野の加工方法や製造工程の改善・自動化・省力化等の研究開発、ロボット導入支援、品質強化と信頼性向上のための技術支援を行っています。

- 注目技術
 - 協働ロボット・産業ロボットシステム開発
 - 溶接動作解析と技術向上システムの開発
 - 計測技術の高度化に関する研究開発
- 技術支援
 - 「ロボット試験室」において「人とロボットが共に働くものづくり」を支援しています。
 - 形状測定や材料強度試験、非破壊内部観察などを行っています。このほか、EMC(電磁両立性)や振動試験、環境試験等の製品信頼性評価にも取り組んでいます。



1.溶接トーチ動作矯正システム 2.マシンローディング 3.マルチセンサ形状測定機 4.精密万能試験機

ご相談窓口
八戸工業研究所
TEL:0178-21-2100
〒039-2245
八戸市北インター工業団地1丁目4-43
www.aomori-itc.or.jp/soshiki/kou_hachinohe/





Photo :
自動直進アシストによる機械除草
(農林総合研究所)



Photo :
青森県オリジナル品種
オウトウ「ジュノハート」

農林部門

農林部門は農業分野の3研究所及び畜産分野と林業分野をあわせた5つの研究所からなり、農林畜産物の生産関連技術、新種開発、防疫等に関する試験、研究、指導などを行っています。

農林総合研究所

水稻、畑作物、花き、施設園芸作物等を対象に栽培技術や病害虫防除及び生産環境、スマート農業に関する試験研究、水稻新品種の開発、種苗生産などを行っています。

■ 注目技術

- 衛星データによる水稻生産指導ツールの機能拡充に取り組んでいます。
- いもち病に強く、防除回数削減による環境負荷低減と生産コスト削減を可能にする酒造好適米品種「華吹雪BL」、「華想いBL」を育成しました。
- スマート農業機械の利用など、労働力不足に対応した安定生産技術に取り組んでいます。
- 人と環境にやさしい総合的病害虫管理技術(IPM)や脱プラスチック肥料による施肥技術に取り組んでいます。



1.青天ナビの施肥診断画面
2.ドローンによる水稻の追肥散布試験
3.夏秋トマトの遮光資材による高温対策試験
4.赤色LED電照による花きの増収技術

ご相談窓口
農林総合研究所
TEL:0172-52-4346



〒036-0522
黒石市田中82-9
www.aomori-itc.or.jp/soshiki/nou_sougou/

野菜研究所

ナガイモ、ニンニクなどの特産野菜を対象に、栽培技術や病害虫防除技術の研究と指導、新品種の開発を行っています。また、ナガイモ、ニンニクのウイルスフリー種苗の増殖を行い、全農あおもりへ原種として供給し、生産者の優良種苗確保を支援しています。

■ 注目研究

- いもの長さが短く、平いもの発生が少ないナガイモ新品種「夢雪」を育成しました。現在、普及に向けた種苗増殖や高品質安定生産に向けた栽培方法の研究に取り組んでいます。
- 近年の集中豪雨の増加に伴い、増加しているナガイモ畝の沈降被害について、発生しやすくなる土壌や作溝方法の条件を明らかにしました。現在、その被害を軽減する技術の開発に取り組んでいます。
- ナガイモ、ニンニクの栽培で化学農薬だけに頼らない環境にやさしい病害虫防除技術や難防除病害虫の防除技術の開発に取り組んでいます。



1.ナガイモ新品種「夢雪」(左)と県内主力系統「園試系6」(右)
2.ナガイモ畝への灌水試験

ご相談窓口
野菜研究所
TEL:0176-53-7171



〒033-0071
上北郡六戸町犬落瀬字柳沢91
www.aomori-itc.or.jp/soshiki/nou_yasai/

りんご研究所

リンゴ、ブドウ、オウトウ、モモなどの果樹を対象に栽培技術や貯蔵管理技術、新品種開発、病害虫防除技術などの研究を行っています。

■ 注目研究

青森県におけるりんご高密度栽培の栽培特性の把握及び高品質安定生産技術の開発に取り組んでいます。

■ 注目品種

- リンゴ「紅はつみ」
初秋を彩る9月上旬収穫の赤色品種です。甘酸っぱく、早生品種としては濃厚な食味で、夏場の気温が高い年でも良く着色します。
- オウトウ「ジュノハート」
非常に食べ応えのある大玉で、見栄えも食味もとても良い品種です。収穫時期は7月初め頃です。



1.リンゴ「紅はつみ」 2.オウトウ「ジュノハート」

ご相談窓口
りんご研究所
TEL:0172-52-2331



〒036-0332
黒石市牡丹平字福民24
www.aomori-itc.or.jp/soshiki/nou_ringo/

畜産研究所

牛、鶏及び飼料作物などを対象とした研究所です。先進的な畜産バイオ技術、粗飼料多給型の乳牛飼養管理技術、飼料作物の栽培技術のほか、スマート畜産の普及促進にも取り組んでいます。また、県基幹種雄牛「寿優福」及び「第1久桜」などの精液提供や特産地鶏「青森シャモロック」の種鶏供給なども行っています。

■ 注目技術

- 受精卵を2つに分割する技術と雌雄判別技術を組み合わせ、雄の双子を生産する技術を開発しました。現在は、種雄牛造りの更なる効率化を目的とし、着床前の受精卵段階における早期選抜の実施に向け、ゲノミック評価に必要な細胞採取方法の検討や受精卵凍結保存技術の改良に取り組んでいます。
- 青森シャモロック種鶏の能力を最大に発揮できる飼料給与や飼養方法を開発し、飼養管理マニュアルを改定しました。また、始原生殖細胞を用いた原種鶏復元技術の開発にも取り組んでいます。



1.県基幹種雄牛「第1久桜(だいちひさざくら)」 2.「青森シャモロック」
3.割球分離技術による一卵性双子 4.顕微授精技術

ご相談窓口
畜産研究所
TEL:0175-64-2231



〒039-3156
上北郡野辺地町字枇杷野51
www.aomori-itc.or.jp/soshiki/nou_chikusan/

林業研究所

多面的機能を発揮する森づくりと林業や木材産業の振興に寄与するため、造林用種苗の生産技術、造林・育林のための施業技術(育て方)、病虫獣害の防除技術、県産材利用のための木材強度や乾燥技術、食用きのこの育種や栽培技術、ドローン等を活用した森林計測技術に関する研究を行っています。

■ 注目技術

- カラマツ造林のニーズに対応するため、本県におけるカラマツの生育適地や施業技術をまとめました。現在は林業経営の指針となる収穫予想表の作成に取り組んでいます。
- スギ大径材から得られるラミナ(集成材を構成する板)について、強度性能の等級分布を調査し、丸太の等級が高いほど、強度等級が高いラミナが得られることなどを明らかにしました。また、県産スギのラミナを用いた集成材を試作し、性能を確認しました。



1.健全なカラマツ林 2.試作した集成材
3.抵抗性クロマツ採種圃 4.「青森さくらげ」生産現場

ご相談窓口
林業研究所
TEL:017-755-3257



〒039-3321
東津軽郡平内町大字小湊字新道46-56
www.aomori-itc.or.jp/soshiki/nou_ringyou/

青森りんご150年 歴史をつなぎ、 未来へ



令和7年(2025年)、青森県にりんごの木が植えられてから150周年という大きな節目を迎えました。明治8年(1875年)に内務省から配布された3本の苗木が県庁構内に植えられたのがすべての始まりです。以降、栽培は本格化しましたが、病害虫や栽培管理の難しさから多くの困難が生じました。こうした中、県民の研究所設置への強い願いを受けて、昭和6年(1931年)に、現在の黒石市に青森県苹果試験場(後のりんご試験場)が整備されました。これが、現在のりんご研究所の原点です。

近年は、気候変動による高温や耐性菌、新たな病害虫の発生など、りんご栽培を取り巻く環境が大きく変化しています。こうした課題に対応するため、りんご研究所では、これまでに蓄積してきた知見を生かしながら、生産者とともに新たな研究に取り組んでいます。

150周年の節目を通じて、青森りんごの歴史や価値を改めて共有し、次の世代へと受け継いでいくこと。将来も、青森でりんごが当たり前になり続けるために、研究と現場がともに歩み続けていきます。



昭和6年当時の青森県苹果試験場 庁舎
(現在のりんご史料館)



Photo:
11月に種苗沖出し後生長したアカモクと雌性配偶体【円内】(水産総合研究所)



Photo:
投網を用いた河川調査(内水面研究所)



Photo:
サバ脂質の迅速測定

水産部門

水産部門は2つの研究所があります。
水産総合研究所で海洋における海洋環境や水産資源の研究を、
内水面研究所では川や湖などの淡水・汽水域における研究を行っています。

食品加工部門

青森県の食品加工業の振興を図るため、
事業者や消費者のニーズに対応した製品開発、加工技術開発、原料特性研究、
品質や有用成分に関する研究、および事業者の技術支援を3研究所で行っています。

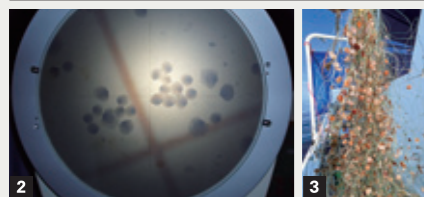
水産総合研究所

海面に生息する有用な水産生物の資源調査、資源管理方法、種苗生産や増養殖に関する研究や、これらと不可欠な海洋環境の調査研究を行っています。また、漁業後継者育成のための研修を開催しています。



■ 注目研究

●ホタテガイ養殖業の経営体数が年々減少するなかで、生産量を安定させるためには、経験や勘ではなく科学的データに基づく養殖作業が必要となっています。そこで、ホタテガイ養殖において重要な作業である採苗を的確に実施するために必要なデータなどをスマートフォンでも閲覧できるシステム「ほたてナビ」を開発しています。



1. 試験運用中の「ほたてナビ」
2. 万能投影機に映された付着稚貝
3. 試験採苗器に付着した稚貝

ご相談窓口
水産総合研究所
TEL:017-755-2155
〒039-3381
東津軽郡平内町大字茂浦字月泊10
www.aomori-itc.or.jp/soshiki/sui_sougou/



内水面研究所

内水面(湖沼・河川)に生息するサケ、サクラマス、ヒメマス、ヤマトシジミなどの水産生物の増殖、ニジマスの種苗生産、品種改良、養殖管理、疾病防除及び漁場環境保全に関する調査研究を行っています。

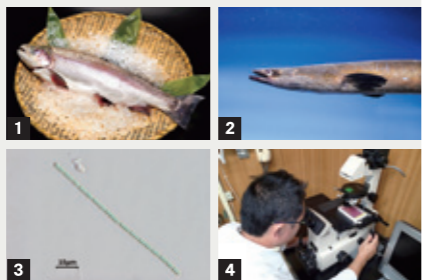


■ 注目研究

●淡水養殖サーモン及び海面養殖サーモンについて効率的な養殖技術の研究開発に取り組んでいます。
●産卵回遊に向かうニホンウナギの実態を把握するための調査を行っています。
●小川原湖における臭気発生糸状藍藻の発生状況のモニタリングと水質環境を調べています。

■ 技術支援

魚病の蔓延を防止するため、魚病の検査や治療方法の指導を行っています。



1. 淡水養殖ニジマス「青い森 紅サーモン」
2. 産卵のため降海したニホンウナギ
3. 糸状藍藻(Pseudanabaena)
4. 魚病検査(検鏡中)

ご相談窓口
内水面研究所
TEL:0176-23-2405
〒034-0041
十和田市大字相坂字白上344-10
www.aomori-itc.or.jp/soshiki/sui_naisuimen/



陸奥湾海況自動観測装置(通称ブイロボ)の更新

ブイロボは1974年より陸奥湾の海況観測を行い、ホタテガイ養殖業などの陸奥湾の漁業や環境保全等に大きく貢献してきました。約10年ごとに更新してきたブイロボは、令和7年度に第6世代に更新され小型ブイの新設などの観測機能を強化し、より詳細な海況の把握が可能となりました。



小型ブイ

大型ブイ

試験船「開運丸」イカ類調査

漁業や養殖業が対象とする水産生物を知るうえで、それらの生息している海洋環境を知ることは必要不可欠です。水産総合研究所の所有する試験船「開運丸」では、青森県外海における海洋観測のほかに、スルメイカ、アカイカを対象とした釣り・流し網による資源調査を継続実施しています。調査結果は関係機関と共有して解析し、現状の資源状態の把握と、将来の予測を行うことで資源管理に貢献しています。



開運丸(199t)

食品総合研究所

水産物を中心とした食品の利用・加工について、蓄積されたノウハウや研究により県内企業や漁業関係者等をサポートしています。加工現場での技術的課題に対する支援や、水産物等の新規加工品開発を行うとともに、鮮度保持や冷凍技術の研究、理化学的手法による分析、検査等により、青森県における水産食品等の製造業に貢献しています。

■ 注目技術

●原料不足に対応した代替魚種や深海性底魚類の利活用、養殖用飼料の開発、冷凍技術開発、非破壊品質測定等に取り組んでいます。
●事業者の商品開発と課題解決の支援、情勢変化に対応した加工技術・製品の開発と普及に取り組んでいます。



1. 酒粕飼料を給餌したウニ
2. サーモンの冷凍試験
3. 深海魚試食会とテナガダラ
4. 商品化された「燻製堂海映サーモン」

ご相談窓口
食品総合研究所
TEL:0178-33-1347
〒031-0831
八戸市築港街二丁目10
www.aomori-itc.or.jp/soshiki/syoku_sougou/

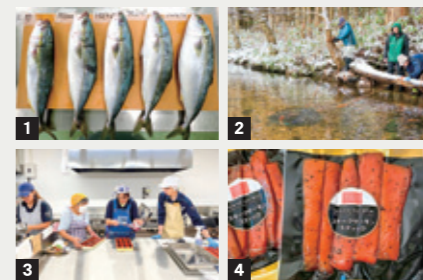


下北ブランド研究所

下北地域の産業振興を図るため、事業者等と一体になって、この地域で生産される農林水産物の特長を生かした商品づくりや商品力の向上に取り組んでいます。

■ 注目技術

●厳しい冬の寒さを生かした加工品づくりを進めるため、ハウレンソウ、ソバ、アピオスといった下北地域特産の農産物の生育中や収穫後に低温処理し、成分変化等を調査しています。さらに、低温処理した農産物を活用した加工品を開発します。
●主力魚種が低迷する中、ホッケ、イナダなどの青森県で漁獲量が増加している魚種について、季節毎の成分変化や調味料の浸透のしやすさといった加工特性を調査して数値化し、今後県内で水産加工に取組む方が原料として導入しやすいようマニュアル化する取組を行っています。



1. イナダの鮮度保持試験
2. ソバの低温処理試験(寒ざらし)
3. 女性リーダースキルアップ研修
4. 商品化された「スモークサーモンスティック」

ご相談窓口
下北ブランド研究所
TEL:0175-34-2188
〒039-4401
むつ市大畑町上野154
www.aomori-itc.or.jp/soshiki/syoku_simokita/

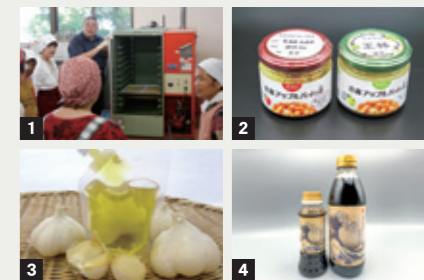


農産物加工研究所

県産農林畜産物の加工特性調査、加工技術の開発・改良等の研究、加工事業者等への技術普及指導や商品化のための技術支援を行っています。

■ 注目技術

●加工事業者等の発想をカタチにするための技術支援、並びに既存商品の保存性の向上や変色防止、賞味期限設定など、より良い商品への成長をサポートしています。県内の特産品を活用した加工品開発の依頼が多く、多彩なものが商品化されました。
●青森県の誇るニンニクほか様々な農林畜産物について、その機能性を最大限に引き出す製法等を研究・技術開発しています。また、特用林産物を活用した新規素材開発に取り組んでいます。



1. 加工事業者向けの商品化技術研修会
2. 商品化された「青森アップルパイの素」
3. アホエンを多く含むオイルマセレート
4. 特許技術を活用した商品「北斎旨みだし」

ご相談窓口
農産物加工研究所
TEL:0176-53-1315
〒033-0071
上北郡六戸町犬落瀬字柳沢91
www.aomori-itc.or.jp/soshiki/syoku_kakou/

